



「生団連ニュースレター」は、国民の生活・生命を守るという使命を追求する生団連の取り組みに関する最新情報を、日頃ご支援いただいている皆様にお伝えしています。

平成26年9月号
国民生活産業・消費者団体連合会

第5回食品廃棄対策委員会

○ 家庭における食品廃棄削減に向けた周知啓発施策を検討 ○ 《情報交換会》“事業者の食品廃棄削減への取り組み”について

8月8日、東海大学校友会館にて第5回食品廃棄対策委員会が開催されました。

会の前半では、家庭における食品廃棄削減に向けた周知啓発施策について討議を行い、本委員会でのこれまでの議論や調査結果を踏まえ「意識」「知識」「管理」の3点を中心に啓発するためのWebサイトを構築することとしました。今後は、Webサイトのコンテンツの充実を図りながら、Webサイトを情報基地とした施策を打ち出し、継続した周知啓発活動を行います。

会の後半では、情報交換会として、委員を代表して食品メーカー3社（味の素様、日清オイリオグループ様、明治様）より、賞味期限を設定する際のポイントとなる商品特性や食品廃棄削減につながる取り組み等についてお話いただきました。

味の素様からは、経産省の製配販連携協議会での取り組みである賞味期限の年月表示化について、取り組む目的や効果、課題についてお話いただきました。年月表示化により、流通段階での無駄な配送の削減や倉庫の保管スペース、店頭での先入先出作業等の軽減が期待されます。また、これまで数字の羅列であった期

限表示を〇年〇月とすることで、お客様に分かりやすい賞味期限表示となります。

続いて、日清オイリオグループ様から、食用油の商品特性と賞味期限延長の取り組みについてご説明いただきました。食用油は水分を含まないために細菌による腐敗がないものの、酸化や熱、光により品質劣化するため、それらの影響を踏まえて賞味期限が設定されています。日清オイリオグループでは油の酸化防止技術として、容器上部の空間の酸素を窒素と置換することで、酸化を防止し賞味期限を延長しています。

最後に明治様より、牛乳における賞味期限の延長の取り組みについてご説明いただきました。牛乳は油とは違い水分活性が高く、細菌が増殖しやすい状況にあります。賞味期限を延長させるためには、原料から製品に至る製造工程において、細菌を増殖させないための高度な技術での製造と、徹底した管理システム体制、設備・機器等の洗浄・殺菌が求められます。現在ではそのような、より高度な技術や管理体制のもと製造され、以前は7日程度であった賞味期限も14日まで延長されています。



生団連は清水信次会長(株)ライフコーポレーション会長の発案で設立、「国民の生活・生命を守る」ことを使命とする団体です。会員は500超の企業、業界団体、消費者団体から構成され、日本の直面する諸課題解決に向け生活者視点で取り組んでいます。

【お問合せ先】

国民生活産業・消費者団体連合会 清水(栄)／宮田 ☎:03-3662-5240 ✉:jimu@seidanren.jp
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町3-6-2 小津本館ビル7階 URL: <http://www.seidanren.jp/>

すくすくスクール防災イベント「あそんで まなんで そなえーる！」
～ 自分を助ける防災スキルを学ぶワークショップ ～

<約80名の子供たちが参加しました>

※すくすくスクールとは？

小学校の放課後や学校休業日に、校庭や体育館などで児童が自由に活動する事業です。

8月27日、江戸川区立第五葛西小学校にて行われた「すくすくスクール」の防災ワークショップで生団連の防災事例集を活用していただきました。

このワークショップでは、

◇スタンプラリー

- ・起震車体験
- ・AED講習
- ・新聞紙でスリッパを作ってガレキの疑似体験
- ・救助だわっしょい！（毛布の担架で人助け）
- ・バケツリレー タイムトライアル

◇展示コーナー

- ・被災した現地の写真の展示
- ・防災関連書籍の紹介

といった活動が行われました。生団連の事例集は展示コーナーにて紹介いただきました。防災について楽しく学ぶ場で、子供たちは身近な視点で防災についてまとめた事例集に興味深く目を通していました。

生団連ではこの事例集を通して、企業・団体の防災活動や家庭で役立つ防災の知恵や技を知っていただくため、取り組んでいきます。



起震車で揺れを体験



毛布の担架で救助活動

<事例集も子供たちに手に取ってもらいました>



「大震災への備え事例集」は生団連ホームページからダウンロードできます。

URL:<http://www.seidanren.jp/katsudou.html#shinsaisonae>

～ 月刊時評 特別対談掲載のお知らせ ～

9月1日発売の月刊時評にて、東京大学 辻哲夫特任教授と当連合会 清水信次会長の特別対談「日本への提言 - 超高齢社会を乗り越える -」が掲載されています。



生団連会長
清水 信次

東京大学
高齢社会総合研究機構 特任教授
元厚生労働事務次官
辻 哲夫 先生

対談では、長寿大国・日本の諸問題の解決に向けた新しいまちづくりと具体的な展望について、意見が交わされました。超高齢社会を迎える日本には、年金・医療・福祉など将来の社会保障を含めて、様々な困難な課題が存在します。その中で日本のあるべき姿について、知見の豊富なお2人による有意義かつ闊達な意見交換がなされました。

超高齢社会への対応は生団連の取り組みのテーマでもあります。今後も生活者視点での実践を基本に活動していきます。